



2024年度 第5号 通算第108号	会長 奥井 滋彦	
	事務局長 廣兼 元太	事務局 京都府中京区烏帽子屋町 493 まるいクリニック(知名、木村) TEL(075)257-5857 FAX(075)252-0055 http://kyotoseishin.com/index.html

～理事会報告～

2024年度京都精神神経科診療所協会第5回理事会

日時：2025年5月17日(土) 18時00分～19時20分

場所：まるいクリニック

出席者：理事13名 / 事務局2名

I. 会員動向

・入会希望・変更・退会：なし

会員数： 83名 78施設(正会員 70名 賛助会員 13名)

II. 報告事項

1. 日精診自殺対策委員会より、「自殺後のトラブル調査の依頼」について(奥井会長・近藤副会長)
 - ・日精診会員でない先生方も回答にご協力をお願いします。5月31日締め切り。
2. 4月、5月 日精診理事会について(近藤副会長 出席)
 - ・次期理事定数は、九精診枠から1名増員予定。
 - ・第2回日本外来精神医学会(9月13-14日、神戸)にご参加をお願いします。
 - ・日精診所属の診療所を対象とした精神科診療所の機能に関する調査(令和6年12月)の速報結果の分析をもとに、早期診療体制充実加算の諸要件の見直しに向け提言を準備中。

III. 検討事項

1. 6月7日開催予定 総会・学術講演会について(奥井会長・吉田理事) → 承認。
場所：ホテル日航プリンセス京都3階「ヴィオラ」
総会：17:00～17:50
学術講演会
講演①：18:00～18:30(質疑込み)
演者：平川病院 宮田 久嗣先生
テーマ：「不安を伴ううつ病にSNRIという選択肢」
講演②：18:30～19:30
演者：特定医療法人社団 青山会 青木病院 院長 飛鳥井 望先生
テーマ：「DSMとICDの狭間で複雑性PTSDについて考える」
座長：歳森理事
2. 総会 議案(予算案・活動方針など)検討(奥井会長・中村理事) → 承認。

3. 次期、役員体制、担当の構成について（奥井会長）→ 承認。
4. 京都市精神保健福祉審議会委員の推薦について（中村理事）→ 会長より、引き続き中村理事を推薦。
5. 京家連から全家連全国大会（9月6日 京都開催）の後援依頼（奥井会長）→ 承認。
6. 次回 FAX ニュースについて
7. その他

IV. 他団体より

1. 3月31日 京都市子ども若者はぐくみ局より、はぐくみ支え合うまち・京都ほほえみプラン（第3・4期障害児福祉計画）にかかる放課後の過ごし方調査結果を踏まえた計画数値の再設定について
2. 4月11日 一般社団法人京都精神保健福祉協会より、めんたるへるす京都68号の発行について
3. 4月7日 公益社団法人日本精神神経科診療所協会より、日精診創立50年記念誌の送付について
4. 4月8日 京都市地域リハビリテーション推進センターより、「体力測定&からだの相談」の開催について
5. 4月1日 京都市こころの健康増進センターより、精神保健指定医の委嘱状の送付について
6. 4月10日 第136回近畿精神神経学会より、第136回近畿精神神経学会演題募集について
7. 4月24日 公益社団法人日本精神神経科診療所協会より、「厚生労働大臣表彰候補者推薦」及び「連盟会長表彰者推薦」の依頼について
8. 4月28日 公益社団法人京都犯罪被害者支援センターより、会費納入の御礼
9. 5月1日 公益社団法人 葵橋ファミリー・クリニックより、「2025年度教育・研修プログラム」のご案内

V. 次回、理事会予定

7月5日（土）18:00～

於) まるいクリニック 5階

～2025年度京精診総会～

6月7日（土）ホテル日航プリンセス京都で、京精診総会が行われました。会員数83名のところ、総会出席26名、委任状提出34名で過半数に達し総会として成立しました。内容は以下のとおりです。

1. 2024年度事業報告

奥井会長より、会長・副会長を含む16名の理事による5回の理事会開催、対面形式での学術講演会再開、症例検討会開催、Faxニュース発行（1～5号）などの活動報告があり、拍手で承認

されました。

2. 2024年度会計および監査報告

会計の中村理事より2024年度の会計報告があり、続いて杉本監事より監査報告がなされ、拍手で承認されました。

3. 次期会長選出

任期満了に伴い、新会長の選出が行われました。会場より奥井前会長を推薦する意見があり、満場の拍手をもって承認、次期会長に選出されました。

4. 2025年度活動方針

奥井会長より、活動の基本的姿勢、役員体制と担当構成、2031年の設立50周年に向けた歴史編纂委員会の立ち上げの提案があり、拍手で承認されました。

5. 2025年度予算案

会計の中村理事より2025年度の予算案の説明があり、拍手で承認されました。

議事終了後、2022年以降新たに加入され、当日ご参加の先生4名からご挨拶をいただき、閉会となりました。みなさま、ご協力ありがとうございました。

～京精診学術講演会～

同日18時より、京精診学術講演会が開催され、38名のご参加がありました。

講演Ⅰ「不安を伴ううつ病にSNRIという選択肢」（平川病院 宮田 久嗣先生）では、低用量（75mg）では主にセロトニン系に、高用量（150～225mg）ではセロトニン系に加えノルアドレナリン系にも作用するベンラファキシンが、重症化・難治化しやすい不安障害併存うつ病の治療で、有力な選択肢となり得るとのお話を伺いました。

講演Ⅱ「DSMとICDの狭間で複雑性PTSDについて考える」（特定医療法人社団 青山会 青木病院 院長 飛鳥井 望先生）では、ICD-11でPTSD（再体験、回避、脅威感覚の高まりの3症状クラスター）と並び、複雑性PTSD（PTSDの3症状クラスターに加え、自己組織化の障害あり）が採択されたが、DSM-5-TRには複雑性PTSDは不採択で、PTSDの基準内に自己組織化の障害の要素を含むと対比された後、本邦でのPTSD治療ガイドライン第3版の紹介がありました。複雑性PTSDは、PTSDに「安定したアタッチメントの形成不全」が重なった病態と捉えることができ、対応では、安定した治療関係の構築、トラウマ心理教育、認知・行動コーピング指導などが重要と、症例を交えたお話も伺えました。両講師は懇親会にも参加され、活発な意見交換が行われました。

以上